放課後等デイサービス事業所の公募に係る選定基準　　　　　　　　　　　　　　　　（別紙３）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| No | 審査項目(大項目) | 審査項目(小項目) | 審査基準（網掛け部分は事前審査項目） | 満点 |
| １ | 事業所の所在【５】 | 開所予定地の小学校区内における放課後等デイサービスの所在 | ①所在しない場合：５点②所在する場合　：０点 | ５ |
| ２ | 事業所の設備【２２】 | 発達訓練室の面積（児童１人当たりの面積）※発達支援室内に設置されるロッカーなど位置が固定されるものについては、支援面積に含めない | ①５．５㎡以上　　　　　　：７点②５．０㎡以上５．５㎡未満：５点③４．５㎡以上５．０㎡未満：３点④４．０㎡以上４．５㎡未満：２点⑤３．５㎡以上４．０㎡未満：１点⑥３．５㎡未満　　　　　　：０点 | ７ |
| 独立した事務室の設置 | ①他の居室と独立して設置※：５点②上記以外　　　　　　　　：０点※固定された区画により、従業者以外が自由に出入りできないスペースが確保されていること | ５ |
| 独立した相談室の設置 | ①他の居室と独立して設置※：５点②上記以外　　　　　　　　：０点※可動式のパーテーションによる間仕切りは不可※静養室との併用は可 | ５ |
| 車いすを使用する児童の受入が可能な施設※いずれの項目も、図面で確認ができることが必須（通路幅の確保、トイレ内で車いすが旋回できるだけのスペースの確保など。手書きは不可） | ア．発達支援室が１階に所在イ．発達支援室が２階以上に所在するがエレベーターによる移動が可能ウ．車いすが利用可能な通路幅の確保（利用者が使用する通路のみ）エ．車いすが使用可能なトイレ面積の確保①ア又はイに該当し、かつウ、エの両方を満たす場合　　：５点②ア又はイに該当し、かつウ、エのいずれかを満たす場合：２点③上記以外　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　：０点 | ５ |
| ３ | 人員配置【２３】 | 人員基準を上回る職員配置※人員配置基準の対象職員を除き、常勤換算後の合計人数で採点 | ①人員配置基準を上回る配置として、３名以上を配置　　　　：５点②人員配置基準を上回る配置として、２名以上３名未満を配置：３点③人員配置基準を上回る配置として、１名以上２名未満を配置：１点④人員配置基準と同数又は人員基準を上回る配置が１名未満　：０点 | ５ |
| 従業者のうち常勤職員の人数※人員配置基準の対象職員を含む。ただし、管理者，児童発達支援管理責任者を除く。※週の勤務日数を問わない。 | ①２名以上　　：３点②１名　　　　：０点 | ３ |
| 強度行動障害児に対しての支援※児童発達支援管理責任者が修了している場合も含む。※１人の職員が基礎・実践研修まで修了している場合は、ア・イを満たすものとする。 | ア．強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）を修了した職員を配置している。イ．強度行動障害支援者養成研修（実践研修）を修了した職員を配置している。①ア・イいずれも満たしている場合：５点②アのみを満たす場合：２点③配置していない場合：０点 | ５ |
| 医療的ケア児に対しての支援※児童発達支援管理責任者も含む。※配置した看護職員が、医療的ケア児等支援者養成研修を修了している場合は、ア・イいずれも当てはまるものとする。 | ア．看護職員（保健師、助産師、看護師又は准看護師）を配置しているイ．行政が実施する医療的ケア児等支援者養成研修を修了した職員を配置している①ア・イいずれも当てはまる場合　　　　　　　　：５点②アまたはイいずれかが当てはまる場合　　　　　：２点③いずれも当てはまらない場合　　　　　　　　　：０点 | ５ |
| 専門性の高い有効な発達支援を行うための体制確保※管理者・児童発達支援管理責任者を除いた職員の中の専門性の高い職員の配置を評価 | ア．保育士又は児童指導員（資格取得後５年以上児童福祉事業に従事した者に限る）イ．理学療法士又は作業療法士ウ．言語聴覚士エ．心理指導担当職員（大学（短期大学を除く）もしくは大学院で心理学を専修し、卒業した者で個人及び集団心理療法の技術を有する者又はこれと同等以上の能力を有すると認められる者）①ア～エの専門性の高い職員について、人員配置基準の対象職員を含め、常勤換算後１以上の配置が認められる：５点②ア～エの専門性の高い職員について、人員配置基準の対象職員を含め、常勤換算１未満であり、配置が認められない：０点 | ５ |
| ４ | 障害児相談支援【５】 | 障害児相談支援の実施の有無 | ア．公募申込開始日までに本市内を開所予定地とした指定申請書を既に提出イ．直近１年以内に本市内に新規開所した実績を有する①ア又はイを満たす場合：５点②上記以外　　　　　　：０点 | ５ |
| ５ | 事業の継続性【２０】 | 運営指導の有無 | ア．本市内で**放課後等デイサービス**の運営実績があり、過去１回以上実地指導を受けているイ．本市内で**児童発達支援**の運営実績があり、過去１回以上実地指導を受けている①ア及びイを満たし、かつ該当する全ての事業所について、直近の運営指導で文書指摘がなかった場合　：５点②アを満たし、かつ該当する全ての事業所について直近の運営指導で文書指摘がなかった場合　：３点③イを満たし、かつ該当する全ての事業所について直近の運営指導で文書指摘がなかった場合　：３点④上記以外の場合　：０点 | ５ |
| 本市における安定した放課後等デイサービスの運営実績 | ア．過去２年間、法人の運営において重大な事故※1や不祥事※2、基準人員欠如等※3により、支援への悪影響が生じていない　　※1 利用者の死亡、入院を要する怪我、利用者の財物の損壊・滅失等　　※2 職員の信用失墜行為や法令違反により利用者処遇に影響を及ぼしたもの（虐待認定、適正手続きを欠く身体拘束、不正受給事案を含む）※3児童発達支援管理責任者が不在となった場合は、減算適用の有無に関わらず、支援に悪影響が生じたものとみなす。（みなし配置が認められた場合はこの限りではない）イ．本市内で**障害児通所支援**を運営しており、運営主体の法人が直近２年間の事業年度において、当期純損失（当期赤字）が生じておらず、かつ、利益剰余金にマイナスが生じていない（累積損失が生じていない）①ア及びイを満たす場合　　　　　：５点②ア又はイのいずれかを満たす場合：２点③上記以外　　　　　　　　　　　：０点 | ５ |
| 必要な運営資金の確保 | ①事業開始後３ヶ月間に要する費用（人件費及び物件費）相当の資金が確保されている場合：５点②上記以外の場合：０点 | ５ |
| 適正な収支見通し | ア．収入見込みが実現可能なものとなっているイ．支出が適正なものとなっているウ．利益が適正なものとなっている①ア～ウの全てを満たす場合　　　：５点②ア～ウの内、２項目を満たす場合：３点③ア～ウの内、１項目を満たす場合：１点④上記以外の場合　　　　　　　　：０点 | ５ |
| ６ | 質の高いサービス提供【１５】 | 事業所における支援の質向上の取組 | ア．研修計画等を作成のうえ、当該事業所の職員に対し、専門知識・支援技術の向上を図るための研修の実施などが想定されているイ．職員間で支援児童や支援内容の情報を共有する機会をつくることなどが想定されているウ．他機関とのケースカンファレンスによる情報共有などの連携が想定されている①ア～ウの全てを満たす場合　　　：１０点②ア～ウの内、２項目を満たす場合：５点③ア～ウの内、１項目を満たす場合：２点④上記以外の場合　　　　　　　　：０点 | 10 |
| 職員の処遇改善（令和６年６月以降の新加算）※選定後、処遇改善区分の変更は不可（ただし、公募時より高い区分への変更は可能）※処遇改善加算Ⅴに関しては、R6年度のみの加算なので項目から削除 | ①処遇改善加算Ⅰを算定する：５点②処遇改善加算Ⅱを算定する：４点③処遇改善加算Ⅲを算定する：３点④処遇改善加算Ⅳを算定する：２点⑤処遇改善は算定しない：０点 | ５ |
| ７ | 障害福祉サービスの理解 | 放課後等デイサービスガイドライン及び自主点検表に関する理解 | 放課後等デイサービスガイドライン及び自主点検表に係る確認書の提出がない場合：▲20点 | － |
| ８ | 基本方針・運営方針【４０】 | 障害児支援の基本理念に沿った支援 | ア．障害のあるこども本人の最善の利益の保障がされた支援が見込まれるかイ．こども一人一人の障害の状態及び発達の過程・特性等に応じた合理的な配慮がなされ、こども施策全体の中での連続性を意識し、インクルージョン推進に寄与する支援が見込まれるかウ．こどもの「育ち」や「暮らし」を安定させるため、丁寧に家族への支援を行い、こどもと家族のウェルビーイングの向上につながるような取組が想定されているかエ．障害のあるこどもに対する支援は、一般的な子育て支援をバックアップする後方支援としての役割を求められていることを認識し、子育て支援と障害児支援が、双方向から緊密に連携した支援を行うための、地域の体制づくりに寄与した取組が想定されているか①ア～エのすべて当てはまる場合　　：５点②ア～エのうち、３つ当てはまる場合：３点③ア～エのうち、２つ当てはまる場合：２点④ア～エのうち、１つ当てはまる場合：１点⑤上記以外の場合：０点 | ５ |
| 支援プログラムの策定 | ア．A：「健康・生活」、B：「運動・感覚」、C：「認知・行動」、D：「言語・コミュニケーション」、E：「人間関係・社会性」の５領域を含む、総合的な支援内容との関連性を明確にした計画となっているかA：健康状態の維持・改善、生活習慣・生活リズムの形成、基本的生活スキルの獲得などB：姿勢と運動・動作の基本的技能の向上、身体の移動能力の向上、感覚の活用などC：認知の特性の理解・対応、外部環境の適切な認知・行動の習得などD：コミュニケーションの基礎的能力の向上、言語の受容と表出などE：人・環境に対する安心感・信頼感の形成、人間関係の形成などイ．法人あるいは事業所で定めた支援にあたっての理念や方針と整合性のとれたプログラムとなっているか①すべて当てはまる場合　　　　　　　　：５点②ア・イのうち、いずれか当てはまる場合：２点③当てはまらない場合　　　　　　　　　：０点 | ５ |
| 放課後等デイサービスガイドラインの主旨に沿った支援「本人支援」への取組 | ア．A：「健康・生活」、B：「運動・感覚」、C：「認知・行動」、D：「言語・コミュニケーション」、E：「人間関係・社会性」の５領域を全て含めた総合的な「本人支援」についての取組が想定されているかA：健康状態の維持・改善、生活習慣・生活リズムの形成、基本的生活スキルの獲得などB：姿勢と運動・動作の基本的技能の向上、身体の移動能力の向上、感覚の活用などC：認知の特性の理解・対応、外部環境の適切な認知・行動の習得などD：コミュニケーションの基礎的能力の向上、言語の受容と表出などE：人・環境に対する安心感・信頼感の形成、人間関係の形成など1. A：「自立支援と日常生活の充実のための活動」、B：「多様な遊びや体験活動」、

C：「地域交流の活動」、D：「こどもが主体的に参画できる活動」の４つの基本活動を複数組み合わせた支援が想定されているかA：必要となる日常生活における基本的な動作や自立を支援するための活動B：自由な遊びや多様な体験の機会の提供、多彩な活動プログラムC：地域の中にこどもの居場所をつくりながら社会経験の幅を広げるD：主体的に参画できる機会を設け、意見を表明しやすい環境をつくるウ．思春期や不登校、特に支援を要する家庭のこどもなどに対して、一人一人の障害の特性及び発達の状況に応じた支援や、合理的な配慮による環境の工夫などが想定されているか①すべて当てはまる場合　　　　　：１０点②ア～ウの内、２項目を満たす場合：６点③ア～ウの内、１項目を満たす場合：３点⑤上記以外の場合：０点 | 10 |
|  |  | 放課後等デイサービスガイドラインの主旨に沿った支援「家族支援」の取組 | ア．保護者がこどもの信頼感を育み、こどもの感情や不安に寄り添い、家族や周囲の人と安定した関係を継続するための支援が期待できるかイ．家族からの相談に対する適切な助言などの支援が期待できるかウ．こどもの発達状況や特性の理解に向けたペアレントトレーニングなど、障害の特性に配慮した家庭環境の整備に係る支援が期待できるか①すべて当てはまる場合　　　　　　　：１０点②ア～ウのうち、２項目当てはまる場合：６点③ア～ウのうち、１項目当てはまる場合：３点④すべて当てはまらない場合　　　　　：０点 | 10 |
| 放課後等デイサービスガイドラインの主旨に沿った支援「移行支援」の取組 | ア．地域において放課後に行われている多様な学習・体験・活動や居場所を享受し、適切な支援を受けられるような取組が盛り込まれているかイ．同年代のこどもをはじめとした地域における仲間づくりを意識した取組が織り込まれているかウ．取り巻く環境が大きく変わる入学・進学・就職時等のライフステージの移行時において、丁寧な支援が期待できるか①すべて当てはまる場合　　　　　　　：５点②ア～ウのうち、２項目当てはまる場合：３点③ア～ウのうち、１項目当てはまる場合：１点④すべて当てはまらない場合　　　　　：０点 | ５ |
| 放課後等デイサービスガイドラインの主旨に沿った支援「地域支援・地域連携」の取組 | 障害のあるこどもや家族を中心に据えた包括的な支援を行うため、保健・医療・福祉・教育・労働等の関係機関や障害福祉サービス等事業者等と連携した支援が想定されているか①想定されている場合　　　　　　　　：５点②想定されていない場合　　　　　　　：０点 | ５ |
| ９ | 個別支援計画に基づく支援【２０】※いずれの項目も事例に挙げている２ケースで評価 | 個別支援計画個々の特性に応じたオーターメイド型 | ア．個々の特性や家族の支援ニーズを踏まえ、支援が想定されているかイ．支援を通じ、こども本人や家族の状況の具体的な到達目標が設定されているか①すべて当てはまる場合　　　　　　　　　：１０点②ア又はイのいずれかは想定されている場合：５点③当てはまらない場合　　　　　　　　　　：０点 | 10 |
| 個別支援計画アセスメントを踏まえた支援 | ア．こどもの状態像の把握とアセスメントを行った上で、必要な配慮について想定されているかイ．アセスメントに基づくPDCAサイクルにより、支援の適切な提供を進めることを想定しているか①すべて当てはまる場合　　　　　　　　　：１０点②ア又はイのいずれかは想定されている場合：５点③当てはまらない場合　　　　　　　　　　：０点 | 10 |
| 小計　１５０ |

　　　※網掛けの項目は、設備・人員等といった客観項目として設定している。